

紐帯としての日本語[※]

～「日本」を離れた日本語

日時：2014年7月3日（木）16:00-17:30
会場：東京外国語大学 研究講義棟103教室

降幡正志(本学教員・インドネシア語学)

「インドネシアの新興産業都市における日本語・日本コミュニティー —首都ジャカルタ近郊チカラン市のケース—」

新興産業都市のひとつであるチカラン市(ジャカルタ郊外)には、多くの日系企業も入ってきており、また日本にかかわるコミュニティー活動も見受けられる。本発表では、同市で「日本語学校AYUMI」を運営している日本人へのインタビューをもとに、インドネシアにおける「日本(語)」の側面について述べる。

河路由佳(本学教員・日本語教育学)

「現代パラオにおける日本語 —人々による日本語使用とその学習の諸相—」

パラオは、1945年まで約30年間、日本の統治下にあり、日本人が多く居住し日本語が使われていた。現代でも、高齢者の一部は日本語を流暢に話す。また、パラオ語には日本語起源の語が多く含まれている。パラオを訪れる日本人は多く、仕事で日本語を使うパラオ人も少なくない。本発表では、現代パラオにおける日本語の諸相を報告する。

※本研究はJSPS科研費23310176 「〈紐帯としての日本語〉日本人社会、日系コミュニティー、
「日本語人」の生活言語誌研究」の成果の一部を報告するものです



<会場アクセス>

- ◆JR中央線:「武蔵境」駅乗換 西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
- ◆京王電鉄:「飛田給」駅北口 多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車

お問い合わせ:東京外国語大学 国際日本研究センター
電話:042-330-5794 メール:info-icjs@tufs.ac.jp